

追加データ

新たな力を手に入れよ。
それは君を強くする。
それは君を追いかける。
どう使うかは、君次第だ。

兵法

■古流・閃衝^{せんしゅう}

使用技能：〈白兵戦闘〉

兵法の中には一度は時の流れに消え去りながら、再び名を知られることになるものがよくあります。それは流派の名をなさしめるのが、その技ではなく、あくまで使い手の技量によるからでしょう。古流・閃衝は、そういった兵法流派のひとつです。

古流・閃衝は突きによる攻撃を主体とした流派で、その鋭さと閃光にたとえられる迅さを神髄としています。とはいえ体得するには天分の才と並外れた鍛錬を必要とし、使い手はほんの一握りでしかありません。あるいはまた消えてしまう流派かもしれません。

なお、古流・閃衝の開祖、そして流派を再興させた中興の祖は、ともにその名が定かではありません。

初級：連衝^{れんしゅう}

一閃のうちに2回の突きを行なう。それが可能な剣速を身につけて、初めて古流・閃衝の剣士を名乗ることができます。

二回の突きを行なうことで、武器修正が+1されます。

中級：華衝^{けしゅう}

古流・閃衝は、ただ速いだけで致命傷を与えることができない——そう揶揄する兵法者もいます。ですが、彼

らは知りません。古流・閃衝は速さと鋭さをあわせ持つ剣術なのです。

《華衝》は攻撃時にのみ使用できる兵法で、対決に勝った方は([成功数]の差分×2+武器修正+その他)でダメージを決定することができます。つまり《華衝》の使用者が負けた場合にも、同じようにダメージが計算されることになるのです。

上級：返衝^{へんしゅう}

残念ながら、突きによる攻撃にはある種の制限がつきまといます。体重移動に必要な間合い、武器を突き込むための空間がどうしても必要なのです。

《返衝》は突きによる攻撃ではなく、相手の動きに応じて突きを行ないうる間合いを保つための体捌きです。

《返衝》を身につけたものは、《華衝》を防御時にも行なうことができます。

特級：散連一角^{さんれんいつかく}

古流・閃衝の迅さを極限まで磨き上げたものの一撃——それはもはや一撃ではありません。剣術に長けたものの目にも一撃にしか見えない突きの間に、無数の攻撃が繰り返されています。

《散連一角》による攻撃では、武器修正が3倍となります。

■野分^{のわり}

使用技能：〈白兵戦闘〉

ヨロイの量産、火器の普及……そんな時代の流れの中、騎馬による戦いは衰退の道をたどっています。

しかし、まるで時代に抗うかのように、愛馬とともに戦場を駆ける者たちがいます。

騎馬武者の中の騎馬武者。命を預けた名馬とともに、冥府との境を疾走する。

野分は、そういう古い武者と、その愛馬が身につけた技術です。

初級：盟友^{めいゆう}

《盟友》の使い手は、終生ともに戦うことを誓った愛馬を所有しています。

愛馬に乗って攻撃する場合、【天下】で命中判定が行なえます。その時、使った武器によらず武器修正を+3として計算してください。

中級：駿馬^{しゅんば}

《駿馬》の使い手の愛馬は、軍でも優れた脚を持つことで知られています。

愛馬に乗っている場合、1ラウンドに移動できる距離を((【敏捷】+【天下】)×10m)で計算することができます。また、《盟友》の武器修正が+5になります。

上級：霸王の馬^{はうおうのうま}

《霸王の馬》の使い手と愛馬との絆は深く、もはや一心同体といっても過

